

I Tホールディングス株式会社 2015年3月期第1四半期決算説明電話会議

質疑応答（要旨）

- Q： 工事進行基準の影響があるとはいえ、第1四半期ですでに前年同期比14億円を超える増益になっています。通期計画が約20億円の増益なので、残りの9ヵ月間で約5億円の増益にしかならないことになりませんが、何か理由があるのでしょうか。
- A： 今後も悪い材料があるとは見ていませんが、工事進行基準の影響は先ほども説明した通り、仕掛りの多い第1四半期にプラスに出た分、検収の多い第2四半期にはマイナスに作用すると見えています。また、カード系が好調と申し上げましたが、大型案件の受注はまだ先になると考えていることも合わせて、今のところ上期・通期とも計画に対してインラインだと見えています。
- Q： カード系の大型案件は受注前の段階ということですが、いつごろ受注できそうなのでしょうか。また、開発の工程に入って売上高に大きく影響してくるのはいつごろのイメージでしょうか。
- A： カード系大型案件については、下期から要件定義工程に入るとの見方の中、順調に推移していると考えています。そのため、業績インパクトは下期ではまだ小さく、来期から大きくなると見えています。
- Q： 不採算案件が第1四半期に11億円発生したということですが、その内容について教えてください。
- A： 11億円のセグメント別の内訳は金融ITサービスで1.5億円、産業ITサービスで約9億円です。このうち1億円以上の不採算案件は3億円と1億円の2件で、ともに産業系です。3億円のものは前期の第3四半期に続く追加の引当てとなり、もともとの稼働予定が延びたことに伴って追加コストを引き当てたものです。終了予定は2015年5月で、現在は外部設計工程にあります。もう一つの1億円のものは、第1四半期に新たに発生したものです。終了予定は2014年9月で、現段階でほぼ先行きは見通している状況にあり、見積もれるコストについては全て引き当てています。金融ITサービスの方は小さな不採算案件の積み上げによるものです。
- Q： カード系が好調とのことですが、具体的にはどのようなもので、第2四半期以降も続くのか等、今後の見通しについて教えてください。
- A： 第1四半期で売上計上されたものや第2四半期に向けて受注できているものは、特定の顧客ではなく複数の顧客からの案件であり、基幹システムの保守業務における新しい案件等です。この状況は顧客側の業況回復という背景もあり、しばらく続くのではないかと考えています。
- Q： 第1四半期の営業利益の増減に対する考え方について、前年同期から約14億円改善しているのですが、ご説明の内容からすると、工事進行基準の適用案件の増加で10億円、不採算案件の減少で3億円、その他、というイメージでよろしいのでしょうか。
- A： 今仰った2つの要因以外の増加分は、主に事業活動による増益とお考えいただいて結構です。
- Q： 計画に比べて利益の進捗が良いと思いますが、工事進行基準の影響は当初から想定していた内容と考えていいのでしょうか。
- A： 工事進行基準の影響は、期初計画の段階である程度想定していましたが、それよりも大きく出ています。一方で不採算案件の発生も思ったより大きかったため、そこで相殺された形になります。

以上